

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○主体的に学習活動や学校生活に取り組む態度、社会性、豊かな人間性、課題解決力の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○生徒一人一人の多様な学習ニーズにきめ細かく対応した学習活動と体験活動、キャリア教育による、生徒の進路希望の実現			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○基礎学力の向上を目指して学習活動に励み、学校行事、体験活動や交流活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	習熟度別授業の充実を図る。	習熟度に応じた学習状況の分析を実施し、指導方法・指導内容の工夫・共有により、学習の理解度を高め、達成感や充実感、学習意欲の向上を図る。	⑦⑧ ⑨⑭		
		クラス編成や評価方法など、運用上の課題を改善する。	⑦⑧		
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	「できた」という喜びや達成感が味わえる授業、「学び合い」によるコミュニケーション能力をはぐくむ授業、一人一人の実態に配慮した授業を心がける。	⑦⑧ ⑩⑭		
	ICT機器の活用を推進し、学びに向かう力の育成を図る。	タブレットや電子黒板の活用を推進し、分かりやすい授業展開の工夫を図る。また、教科横断的な学びを心がけ、様々な現象を多面的に捉えられる姿勢や、学んだ知識を活用した課題解決能力を身に付けさせ、自主学習の習慣化を促す。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑭⑮		
	言語活動の充実を図る。	発表、発言しやすい雰囲気を作り、意見を述べる場面や考えをまとめる場面、要約の実施など、各教科における授業実践の中で、言語活動の充実を図る。	⑦⑧ ⑨⑩ ⑭⑮		
授業改善推進プロジェクトチーム	教育目標を達成するために、組織的な授業改善を行う。	相互授業参観や研究協議、校内研修などをとおして、生徒に合わせた指導方法話し合い、授業改善に取り組む。	⑩⑪		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上と自ら学ぶ姿勢を育む。	音読を通して、様々な文章に接する中で正確な読みが出来るようにする。 ⑦			
			語彙力を鍛え、思考力、判断力・表現力を培う。 ⑦			
		様々な文章にふれる姿勢を養う。	図書館を有効に活用し、読書に親しむ習慣をつけさせる。 ⑧			
			教材の選定に配慮し、作品に対する興味関心を持たせる。 ⑦⑧			
		日常生活における伝え合う力を鍛える。	場に応じた話し方(敬語を含む)を身に付けさせ、適切なコミュニケーションを図るための話す力・聞く力を鍛える。 ⑦			
			ICT機器を活用し、教材や情報を共有し、様々な表現方法を身に付けさせる。 ⑨			
	地歴	個々の到達度を踏まえた授業展開を図る。	個々の到達度を把握し、取り扱う内容や方法を検討し、積極的に授業改善を図る。 ⑩⑪			
			生徒に自信を持たせ、学習意欲を喚起する個別指導を展開する。 ⑧			
		わかりやすい授業を展開する。	授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。 ⑦			
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑩			
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。 ⑦⑧			
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。 ⑦⑧			
	公民	ICT機器を積極的に活用し、地理歴史に対する興味関心を高める。	ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、地理歴史に対する興味を持たせる。 ⑧⑨			
			写真や映像などを用いて、地理歴史に対する興味関心を高める。 ⑧			
		わかりやすい授業を展開する。	授業目標に沿った授業計画を毎時間立案する。 ⑦			
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑩			
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習を利用して要点を整理するとともに、生徒自身の振り返りの時間を設け、生徒の理解度を把握する。 ⑦⑧			
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して適宜補習を実施する。 ⑦⑧			
	数学	ICT機器を積極的に活用し、公民に対する興味関心を高める。	ICT機器の活用により言語活動の充実を図り、公民に対する興味を持たせる。 ⑧⑩			
			写真や映像などを用いて、公民に対する興味関心を高める。 ⑧			
		基礎学力の向上を目的とし、個に応じた指導を心がける。	習熟度別クラス担当者間の連携を深め、定期テストや基礎力診断テストなどの結果について分析・共有して、個別最適な学びの実践の目指し、フィードバックを活用する授業を展開する。 ⑦⑧			
			基礎・基本がなかなか身につかない生徒や成績上位者に対して、必要に応じて個別指導をおこなう。 ⑧⑩			
		学習意欲を高め、わかる喜びを実感できるように授業改善を推進する。	生徒の抱えている疑問や誤りやすい箇所を的確に把握し、学習段階にあった適切な課題を提供し、発展的思考を誘発する。 ⑦⑧			
			ICTの効果的な活用により、原理・法則の良さや有用性、定理や公式の汎用性に気付かせ、数学を学ぶ意義が見出せるように工夫する。 ⑦②⑧			
		学習指導要領に応じた指導と評価を行うよう努める。	言語活動や体験活動を取り入れた学習場面をつくり、主体的な学びを援助する。 ⑦			
			新しい観点別の評価のためにこれまでの工夫に加えて授業ごとに振り返る場面を設けて、生徒の学びを援助できるような評価を行う。 ⑧			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	理科	生徒の視点に立った授業を展開する。	生徒の理解度、興味関心を確認しながら、理解しやすい授業を展開する。 ⑦			
			授業終了後に指導内容を振り返り、その反省点を次の授業の改善に活かす。 ⑦			
		基礎学力の向上を図る。	プリント学習とプレゼン用ツールを利用して、要点を整理するとともに、生徒の理解度を確認して、基礎的基本的事項をしっかりと理解させる。 ⑦			
			学習内容の定着のため、理解が不十分な生徒に対して、必要に応じて補習を実施する。 ⑦			
		自然に対する興味関心を高める。	生徒実験の実施回数を増やし、演示実験などを効果的に用いて、自然の事物や科学的な現象に対する興味関心を持たせる。 ⑦			
	保健体育		電子黒板やタブレットを活用して映像やデータなどを提示し、自然の事物や科学的な現象に対する理解を深める。 ⑧⑨			
		授業改善	生徒の現状を踏まえ、生徒の興味関心や能力に基づいた授業を展開し、授業公開や研究協議の充実を図るなど組織的な取り組みを行う。 ⑩⑪			
		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。	身の回りの健康問題について、疾病との関連や社会への影響などと関連づけて指導する。 ⑦⑧			
		個に応じて体力を全体的に高めるようにする。	スポーツテストの結果を活用し、それぞれの体力レベルにあった補強運動を定期的に取り入れる。 ⑦⑧			
		基礎体力・運動能力の向上を図る。	各領域と関連づけた体づくり運動を毎時間取り入れ、仲間とコミュニケーションを図りながら、運動量の確保に努める。 ⑧⑩			
	芸術		各領域において、楽しく運動をおこなえるよう、公正公平な態度で積極的に授業に取り組む生徒を増やす。 ⑧⑨			
		自らの健康を適切に管理し、改善する能力を育てるように授業改善を実践していく。	タブレットやICT機器を活用して自らの運動課題を発見し、改善する方法を考えさせる。 ⑨⑩			
		芸術を愛好する心情を育て、より深く芸術を味わう。	個に応じた指導により、基礎・基本の定着を図る。 ⑦⑧			
			タブレットやICT機器の活用により、より分かりやすく、活動しやすい形態を目指し、深い学びに繋げる。 ⑧⑨			
		芸術的感性を高め、豊かな情操を養う。	様々な芸術分野に触れさせ、その経緯や時代背景への理解とあわせて芸術的感性を高める。 ⑥⑩			
	英語		鑑賞活動を取り入れ、多くの芸術作品に触れさせることで豊かな情操を養う。 ⑥			
		個に応じた指導を充実させ、義務教育段階での学習内容の確実な定着と基礎学力の向上を図る。	習熟度別学習による少人数指導によって生徒個々の能力に応じたきめ細かな指導を行い、各生徒が抱えている得手不得手や理解度などの傾向を分析し学習内容の定着に努める。 ⑦⑧			
		言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	授業でのグループ活動やペアワークを通して英語でのコミュニケーションや言語活動に対する興味を持たせ、主体的な態度を育成する。また、ALTとの交流を通して多様な文化への関心や興味を引き出す。 ⑦⑧			
			紙媒体の教材も併用しながらも、電子黒板やタブレットを活用し活動内容に応じて効果的な授業教材を提示する。 ⑦⑨⑳			
		指導に関する検証改善サイクルを確立し、より分かりやすく内容を定着させるために授業改善を図る。	科全体で授業目標やねらいを明確にした上で単元ごとの内容や活動について綿密な計画を作成し、実践する。 ⑦⑧			
			4技能を伸ばさせるための言語活動を、生徒一人一人の能力や特性に合わせた形式で実行する。 ㉑			
			授業内容や教材について担当者間で共有をし授業を実施する。また、定期的に授業内容や指導を振り返る機会を設け、科全体で情報を共有して次の授業に活かす。 ⑨㉒			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	家庭	ICT機器を活用し、日常生活に必要な知識や技術を身につけさせる。	ワークシートや学習ノートを使用し、定期的に内容の確認をすることで知識を定着させる。 ⑦			
			電子黒板やタブレットを活用し、視覚教材を多用した被服実習や調理実習を数多く体験させ、基礎的な技術を習得させる。 ⑦⑨⑩			
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑩			
		生活の中から課題を見つけ、創意工夫し生活の向上を図る。	ホームプロジェクトを実施・発表させることにより、生活の質を向上させ、家族のコミュニケーションの深化を促す。 ⑦⑧			
	情報	消費者問題や環境問題などの身近な問題について考えさせる。	消費生活の問題について学習し、早期解決法を習得させる。 ⑦			
			資料集やタブレット、電子黒板を活用し、班別に調べたり発表したりすること で、問題意識を持たせる。 ⑦⑨⑩			
		コンピュータの基本的操作の習得を目指す。	情報検索技術や主要なソフトウェアの操作等、基本的な情報技術を習得できるよう計画的に指導する。 ⑨⑩			
			基本的なキータッチの指導を行い、正確で迅速な入力操作を目指す。 ⑨			
			視聴覚教材などを利用し、情報モラルの理解に努める。 ③⑥			
		情報モラルの定着に努める。	調べ学習を通して、実生活で起こりうる著作権侵害などの問題を把握させる。 ⑥			
			コンピュータや情報配信ネットワークの正しい利用を促すため、視聴覚教材・ソフトウェア・インターネットを効果的に組み合わせて指導する。新しいテクノロジーがもたらす機会を考慮し、情報に基づいた選択ができることを目指す。 ⑩			
			各種研修会に参加して、自己研鑽に努め、教材や指導法の工夫など、日々授業を改善しながら、情報社会への参加のための効果的な指導ができるようにする。 ⑪②④⑤			
	福祉	基礎学力の向上と社会福祉に関する基礎知識の習得を図る。	教科書やプリント、タブレット等を使って、わかりやすい授業を展開し、自分の考えを文章にまとめたり発表する機会を通して社会福祉の意義や役割を理解させる。また、授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。 ⑦⑧⑨⑩			
		人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。	車イスの介助体験や障害者体験（体の不自由な人の体験）などの実習や総合的な探究の時間と連携した外部施設での体験を通して、幅広く社会福祉を学ばせる。 ⑤⑥⑩			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	学校行事の精選と、効率的な行事の運営を促し、働き方改革を推進する。	月初めに2か月先までの行事予定案を提出し、円滑な運営を目指す。 行事の企画・運営においては、関連校務部・学年・教科等との連携、調整を図りながら円滑な実施に努める。今年度は本校創立40周年記念式典を控えており、関係各所との連携をこれまで以上に重視し、記念行事を含む各種行事が円滑かつ意義深いものとなるよう努める。	(20)(27) (27)(28)	
	教育課程の円滑な実施に向け、より具体的な授業計画の検討や、持続可能なカリキュラムマネジメントの充実を図る。	基礎学力の定着を軸とした、組織的かつ計画的な教育活動に取り組み、学びの基礎診断等を活用したPDCAサイクルの推進を図る。	(7)(8) (9)(10) (24)(25)	
		観点別学習状況の評価を明確にし、きめ細かい学習指導と個に応じた指導の充実を図る。	(7)(8) (9)(10)	
		日本語の習得に課題のある外国籍の生徒に対しては、校内での支援に加え、外部機関との連携を図りながら、学習面でのサポートを充実させる。	(7)(8) (9)(10) (11)	
		学校の将来構想に基づき、身につけさせたい資質・能力の育成を踏まえた新しい教育課程の充実を図る。	(10)(24) (25)	
	日常業務の改善を図り、働き方改革を推進する。	習熟度別授業や選択授業に対応して、授業交換・填補を円滑に主導する。	(27)(28)	
		校務支援システムを用いた、要録・調査書等の処理および、観点別学習状況を踏まえた成績管理等を円滑に行う。	(27)(28)	
		奨学金制度の情報を周知し家庭の理解と協力を求め、充実した活用を図る。	(20)(23)	
		教科書の採択事務を適正に行う。	(20)(24)	
	学校ウェブサイトの更新に努め、積極的な情報発信を推進する。	各校務部や学年等と連携し、積極的な更新作業や、情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。	(20)(23)	
進路指導	生徒一人一人の能力・適性の発見と伸張を図り、進路選択を支援する。	生徒の学習および職員の研修がよりよく進められるよう、図書資料および視聴覚教材の充実を図る。	(6)(7) (10)	
		生徒の学習および職員の研修にふさわしい図書館となるよう、図書館の美化や図書の配置等を工夫し、利用しやすい環境を整える。	(6)(10) (28)	
		授業やHRの中で、施設および蔵書・視聴覚教材の積極的な利用を図る。	(7)(10)	
	個人の特性に応じた進路指導により進路意識の確立をはかる。	各種の検査等を実施し、能力や適性の診断をすることで、自己の適性を理解させる。	(16)	
		各教科と連携し、進路実現に必要な基礎学力を身に付けさせる。	(7)(8) (10)	
		LHRや総合的な探究の時間を活用し、進路意識を高める。	(14)(16)	
		1年次から進路講演会や分野別学習会を実施し、自己の進路や生き方を考える。	(16)(17) (18)(19)	
		2年次においては、実践的なキャリア教育を実施し、職業観を育成する。	(16)(17) (18)(19)	
		3年次においては、就職・進学に向け、生徒それぞれの進路目標の実現を図る。	(16)(18)	
	ICTの活用による進路情報の充実をはかる。	生徒・教員への求人票情報などは、紙媒体だけでなく、ICTも活用する。	(28)	
	保護者への情報提供の場を確保し、HPの更新に努め、積極的な情報発信を推進する。	進路便りを発行し生徒・保護者に配布する。HP係や学年等と連携し、積極的な更新作業や情報発信を心がけ、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。	(20)(23)	
	働き方改革を推進する。	業務内容を精選・効率化すると共に、進路室の来客スペースを整理して来客対応を効率化する。	(27)(28)	

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
生徒指導	いじめや暴力のない「安全・安心な明るい学校づくり」に努める。	生徒の変化について早期察知と教員間での情報共有に努め、組織だった対応によりトラブルの未然防止と迅速な解決を目指す。 ③			
		二者、三者面談などあらゆる機会を利用し、生徒・保護者・学校が良好な関係を築き、相談しやすい雰囲気がつくれるよう、関連情報を提供し学年団を援助する。 ③④			
		生徒会協働の生活委員会あいさつ運動はもとより日頃からあいさつを奨励し、礼儀正しい集団かつ明るく過ごしやすい学校環境作りに努める。 ②⑥			
	規範意識や基本的生活習慣を確立する。	服装容儀指導を毎月実施するほか、授業や校内生活、登下校時において指導していく。改善が見られない場合の段階的指導を積極的に行う。 ①⑥			
		授業に参加する姿勢を整えるため、遅刻の段階的指導および授業態度に対する指導を行う。 ⑥			
	教育相談体制の充実を図る。	学校だけでは解決が困難なケースについて、専門性を有するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、課題を抱える生徒の支援をおこなうため、生徒や保護者へのカウンセリングを効果的かつ円滑に実施できるよう、係と担任の間で生徒情報や実施時期について共有に努める。 ③④			
	働き方改革を推進する。	校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。 ②⑦⑧			
特別活動	ホームルーム活動をととして、望ましい人間関係を養う。	教師の適切な指導で、生徒の自発的な活動が効果的に展開されるようにする。 ⑬⑭			
		有意義な集団生活を築くために、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や、人間関係形成能力を高める活動を充実させる。 ⑬⑭			
	生徒会活動をととして、所属感や連帯感を高め、次世代に繋げる。	ホームルームや学年を超えた異年齢集団による生徒相互の交流を活性化させる。さらに、タブレットを利用した計画・実施や記録を生徒自身が行い、継続的な活動の一助とする。 ⑫⑬⑭⑮			
		生徒会活動が行われる諸集団において、生徒一人一人が何らかの役割を持ち、充実感や存在感を味わうための援助をする。 ⑮			
		望ましい人間観、勤労観、職業観を身につけさせるために、ボランティア活動などの体験的な活動を充実させる。 ⑮⑯			
	学校行事をととして、学校生活に秩序と変化を与え、達成感を高め学校生活の充実と向上を図る。	生徒の学校生活にリズムを与え、折り目を付け、新しい生活の展開への動機付けとなるような行事を実施する。 ⑬			
		各行事の教育的意義を明確にし、生徒が協力して活動することにより、達成感を得ることにより、望ましい校風を育てていく。 ⑬⑭			
	働き方改革を進める。	キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己の活動を振り返る機会を設け、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 ⑮			
		校務の実態を把握し、内容に応じた電子化やマニュアル化、明確な分担、資料の事前配布など業務内容や効率の改善を図り働き方改革を推進する。学校行事及び生徒会活動などをICTの活用で、効率化を図り、作業手順を最適化することに繋げる。新しい手順での学校行事の進め方を構築する。また、ICTの活用で時間短縮やペーパーレス化を図る。 ②⑦⑧⑨⑩			

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
保健厚生	心身の健康保持・増進に努める。	定期健康診断、体位測定、性教育講話や薬物乱用防止講話などを通して、心身の健康の大切さを認識させ、自己や他者の生命を尊ぶ考え方を育む。 ⑥		
		円滑な保健室運営及び適切な応急処置・感染症対策により、心身ともに健康で安全な学校生活を送ることができる環境作りを心掛ける。 ⑥		
	学習環境を整備する。	清掃活動、安全点検などにより、校内の美化・整備に努め、よりよい学習環境をつくる。特に大勢の来客があるときは特別な清掃をする。 ⑥		
		暖房器具や空調設備の安全管理を徹底するとともに、温度・湿度・大気中各種濃度の環境整備に十分留意する。 ⑥		
	災害時の適切な対応の徹底を図る。	防災計画に基づいて地域とともに校内防災に努める。また、防災避難訓練などを通して生徒の安全意識の高揚を図る。 ⑥⑬⑰⑲		
	保健厚生サービスの充実に努める。 働き方改革を推進する。	昼食販売業者を確定させ、自動販売機も活用し、生徒が利用しやすい環境を整えるとともに、校内販売が健全な食育に資するよう配慮する。 ⑥ グーグルドライブを利用して、部内連絡の効率化を図る。 ⑳		
渉 外	開かれた学校づくりに努める。	PTA行事や役員会を通して情報を発信するとともに、保護者との連携を図る。 ⑳㉔ 各支部の円滑な運営をサポートする。 ⑳㉔ 保護者の要望や提言を集約し、学校教育の改善と充実に生かす。 ⑳㉔		
	働き方改革を推進する。	業務偏重を無くし、ICT活用による情報の共有化、効率化を図る。 ㉔㉔		
	探究活動を企画・実施する。	学習指導要領の目的を達成するため、高校生活3年間を通した探究活動を創造する。 ㉔ 探究活動をとおして地域や外部機関との連携や協力する体制を構築し、活動内容の具体化に努める。 ㉔㉔㉔ 各学年と連携し、年間を通した総合的な探究の時間の活動を充実させるとともに、授業記録を残し今後の活動・授業改善や企画に役立てる。 ⑩㉔㉔		
	働き方改革を推進する。	課題研究においてICTを活用し、情報の共有化やペーパーレス化などを推進し、業務の効率化を図る。各活動についてより有効で効率的な実施方法を検討する。 ㉔㉔㉔		
1 学 年	基本的生活習慣を身につけさせる。	月初めの服装容儀指導、毎時間の授業における指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 ① 家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。 ④		
	いじめが起らないような環境づくりに努める。	生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 ②⑥ 学年内、保健室、保護者等との様々な情報交換を密にするとともに、授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。 ③④⑥		
	基礎学力の向上に努め、自ら学ぶ姿勢を育てる。	習熟度別学習やT・T等、指導形態を工夫することにより、基礎学力の定着を図る。 ⑦⑧ コンピューターやタブレットを活用した学びの進め方を研究し、情報社会で生きるために必要な心構えと情報スキルを身につけさせる。 ⑨ 放課後の補習や個別指導を通して、苦手教科の克服に努める。 ⑧		
	進路についての啓発を図る。	進路講演会・キャリア探究・バス見学会等を実施し、早い段階から進路に関する意識付けを図る。 ⑬⑰⑱⑲		
	学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。	各種行事を通して、集団生活を体験させるとともに、集団の中での個の役割を自覚させる。 ⑬⑭ ボランティア活動への参加や部活動加入を促し、放課後の学校生活の充実を図る。 ⑮㉔		
	働き方改革の推進を図る。	行事の実態を把握し、実施方法を工夫しながら状況に応じた精選を図る。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ㉔㉔		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2 学 年	基本的生活習慣を身につけさせる。	日頃からあいさつ・時間厳守・整理整頓を心がけ、良好な生活習慣の確立に努めさせる。 ①		
		月初めの服装容儀指導、毎時間の授業における指導のみならず、休み時間や登下校においても、きちんとした身なりを徹底させる。 ①②		
		家庭との連絡を密にし、安易な欠席・遅刻・早退の防止に努める。 ①		
	いじめが起こらないような環境づくりに努める。	朝の立哨や昼巡回を積極的に活用し、生徒の観察・挨拶指導・個人面談等を通して、生徒の理解に努める。 ④		
		学年内、保健室、保護者等との様々な情報交換を密にするとともに、授業も有効に活用し、いじめや問題行動を未然に防止できる体制を整える。 ③④		
	基礎学力の向上に努め、自ら学ぶ姿勢を育てる。	習熟度別学習やT・T、ICT 活用授業等指導形態を工夫することにより、基礎学力の定着を図る。 ③⑥		
		到達度テストの事前・事後指導を通して日々の学習の成果を自己分析させ、小さな成功体験の積み重ねから学習意欲を育む。 ⑦⑧		
	進路についての啓発を図る。	放課後の補習や個別指導を通して、苦手教科の克服に努めるとともに、進学希望者の学力向上に努める。 ②③		
3 学 年	基本的生活習慣を確立させる。	インターンシップ実施のための一連の探究学習や、進路学習、地域ボランティア、就業体験(HSコース)を通して、望ましい職業観と勤労観の育成を図る。 ⑩		
		団体行事を実践することで、学年全体で意識を高め行動できる力を養う。また、集団としての帰属意識を高める。 ⑤⑬⑮⑯		
		学校行事や部活動への積極的な取り組みを促す。 ⑬		
	働き方改革の推進を図る。	修学旅行を有意義な教育の機会とするために、SDGs等を題材とした探究学習を交え、計画的な指導を行う。また、学年行事は可能な限り全員参加を目指す。 ⑤⑥		
		教員間の連携を密に図り、業務の遂行に必要な情報を共有する。また、業務の削減や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ⑤⑥		
	いじめにつながりかねない事象の早期発見と、素早く適切な初動に努める。	服装容儀指導に限らず、服装面・生活面を振り返る機会を設け、最上級生としての自覚、規範意識の定着を図る。 ⑭		
		挨拶・返事、礼儀や言葉遣いを日常的に意識させることで習慣化を促し、卒業に向けて内面の成長を促す。 ②⑬		
		欠席連絡や、遅刻カードの記入と声かけを厳格化し、欠席・遅刻の増加を抑える。 ①④		
	個々の能力に応じた指導を心がけ、基礎学力の向上をめざす。	HRや授業等、生徒の様子や変化に注視し情報を共有する。また、他学年の先生や授業担当者との連携を積極的に行い、生徒理解に努める。 ②③		
		保護者連絡については事案の大小にかかわらず積極的に行うとともに学年全体で協力体制を確立し、保護者との連携強化を図る。また、トラブル等の未然防止、早期発見に努める。 ③④⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳		
		キャリアタイムやLHR、放課後の時間を有効に活用し、就職や進学に必要な基礎学力や一般常識、面接での受け答えなど対応力を身に付けさせる。 ⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳		
	課題を発見し解決していくための資質・能力を身につけさせる。	数学での習熟度別授業や、国語でのTT授業、英語でのALTとの共同授業を効果的に活用し、生徒個々にきめ細かく教科指導を行う。 ⑦⑧		
		課題研究を通して、課題発見能力や問題解決能力の向上を図り、思考力や合意形成の方法など、社会人として必要な資質能力を身に付けさせる。 ⑥⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳		
	生徒一人ひとりに応じた進路目標の実現を図る。	キャリアガイダンスや、進路講演会を活用し、キャリア教育の推進を図る。将来的に自身がどのようになりたいかを具体的に考えるきっかけを与える。 ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳		
		段階的面接指導を工夫・改善し、個に応じた進路目標の実現を目指す。 ②⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳		
	働き方改革を推進する。	行事の実態を把握し、行事の精選、実施方法の改善を図る。また、業務分担の工夫や効率化を進め、超過勤務の減少を目指す。 ⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳		

※評価基準 A 大変よくできた B よくできた C 普通 D やや不十分 E 不十分